

# ユースが行く！！

## All Japan Youth Eco-club 2015



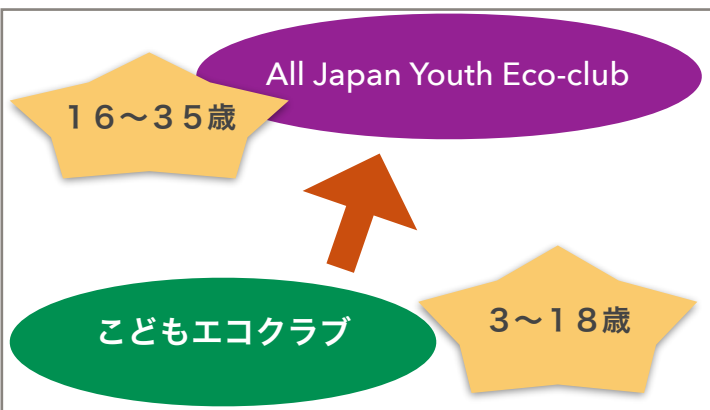
# All Japan Youth Eco-club

## All Japan Youth Eco-clubって？

平成7年に環境省事業としてスタートし、平成23年度からは環境省後援のもと日本環境協会の事業として実施している「こどもエコクラブ」は、こどもたちが地域の中で自主的に行う継続的な環境活動や学習を支援する事業です。これまで延べ210万人以上のメンバーが登録して、全国各地で環境活動をおこなってきました。このこどもエコクラブで活動していたOB・OGを中心としたユースメンバーのネットワークを築き、メンバー同士の交流や自由な活動を行っているのが「All Japan Youth Eco-club」（通称：ユース）です。現在のこどもエコクラブの活動の充実・発展や持続可能な地域及び社会づくりに貢献することを目指しています。

こどもエコクラブは3歳から18歳までが参加できます。

こどもエコクラブを卒業しもっと環境活動をしたい、あるいはこどもエコクラブからさらにステップアップしたいという卒業生16歳から35歳までが所属しています。



関東・関西メンバーと合同イベント

(大阪にて)

All Japan Youth Eco-clubのロゴです



木の幹は私たち人  
木の葉は地球に  
人間と一緒に住む  
生き物たちで  
できています  
共存・共生という意味も  
込められています

# ユースの活動！

## ～ユースの主な活動～

### \*主な活動内容\*

活動の軸になっているのは

- ①子どもたちと一緒に学び、ともに活動
- ②サポーターたちの交流会の企画・運営
- ③「ユースが行く！！」体験取材・発行
- ④全国フェスティバルのサポート

など！！

こどもエコクラブだけでなく  
環境に興味のある子どもたちとも  
交流しています。

私たちが今までエコについて  
学んだことを紙芝居にしたり、  
子どもたちの輪の中に入って  
交流しやすい場作りなどをしたりと、  
先生やサポーターより一歩近い存在として  
一緒に活動しています。

また、こどもエコクラブのサポーター同士の  
交流会も開催しています。

全国フェスティバルは  
全国の代表クラブが集まる大会です。

大会でのお手伝いだけでなく  
アイスブレイクを

メンバーで考え担当しています。

大学生や大人になっても  
環境活動を続けようと思える  
きっかけになるように私たちの活動を  
紹介する活動も行っています。

ユースはこどもエコクラブを卒業した  
メンバーを中心に全国で活動しています。

自分たちの地元だけでなく  
他のメンバーが住む地域や初めて  
行くようなところなど様々な場所を訪ね、  
つながり作りを行っています。

### \*地域に密着した活動\*

普段は自分たちの地域の  
こどもエコクラブなどで  
サポーターとして活動している  
メンバーも多くいます

<片瀬少年少女探検隊のでの様子>



# ユースが行く！！

～「地域＋α」・ユースの架け橋～

＊「ユースが行く！！」とは＊  
きっかけは、「自分のクラブの枠と越えて、  
体験して感じたことを誰かに伝えたい。」  
というものでした。  
自分のクラブでやっていなかったこと、  
自分の地域ではできなかったこと  
自分たちが体験して感じたことを誰かに伝えたい。  
そんな思いから、この連載が始まりました。  
普段の活動やイベントのお手伝いを通して  
体験するだけでなくそこに取材をするという  
視点を加えることでユース自身の環境への  
興味関心を様々な人に伝えることができ、  
自分たちが得たものを共有できるため活動に  
さらに楽しみが生まれています。



オイスカ『子供の森』子ども親善大使  
×こどもエコクラブ交流会in谷津干潟  
にて



＊「地域＋α」＊

「+α」は視点。

自分の地域だけでなく、  
自分が普段行かないような街。  
あるいは自分が普段過ごしていても  
自分の知らない視点から街を知る。  
今までになかった視点を持つということ  
この視点を持つことで  
社会人や地元を離れた学生にとって  
忘れがちな地域とのつながりの  
大切さを思い出させてくれます。

＊ユースの架け橋＊

ユースが出会ってきたサポーターや企業、団体との連携がこれからの活動によって生まれてくると良いなと考えています。  
そのためにもまず私たちが「ユースが行く！！」でつながり、いろいろな人と出会い一緒に体験することで、人と人をつなぐ架け橋になっていくことができると考えます。

### 調布こどもエコクラブ

活動地域：東京都調布市

人数：メンバー55名 サポーター17名

年齢：小学1年生～中学3年生

活動頻度：年7回

結成：2000年

気になるクラブ：同じ調布市で活動するクラブ

#### ◇どうやってできたクラブなの？◇

東京都の中でも自然がたくさんある調布市。環境について学習してほしいという市役所の考えと、市民の方の、自分たちがサポートしながら子どもたちにも環境活動をしてもらいたいという考えからできたクラブだよ。

#### ☆保護者の方にお話を聞いたよ

小学3年生のメンバーのお母さんにお話を聞いたよ。

「調布こどもエコクラブは今年が初めての参加。親の目から離れて新しく友だちを作り、活動するのは良いこと。今後は、落ち葉焚きのように火を使ったり、野草を見つかけたり、虫を見たりと、昔は身近だったが今はなかなかできないことを体験してほしい。」とのこと。

#### ☆代表の方からのメッセージ

活動をサポートしている調布市役所の飯沼主事は、「生活が豊かになるとともに、温暖化など環境破壊が起こることで、人々が住みづらくなってしまっている。それを人々の手によって良くしていければ、と思う。子どもには、今ある自然の大切さを大人になっても忘れずに受け継いでほしい。」と言っていたよ。これから、調布こどもエコクラブでは、メンバーで話し合って年に1つのゴールを決めて、最後に成果を作り出すような活動にもチャレンジしていきたいそうだよ。

2015年度の活動内容は、

調布市環境政策課 (tel: 042-481-7086)

にお問い合わせください。

また、毎年4月に参加者の募集を行っています。



#### ◇どんな活動をしているの？◇

テーマは、「子どもたちに自然を楽しみながら学ぶことで好きになってもらう」。毎年4月にサポーターさんが話し合って決めているよ。毎年恒例となっている活動があったり、サポーターさんが気になっているものやメンバーから集めたアンケートから選んだりしているんだ。

平成27年2月21日

#### バードウォッチング体験

朝、調布市多摩川自然情報館に集まったよ。調布市環境モニター

の方に双眼鏡の使い方を教えてもらった後、多摩川の河川敷でバードウォッチング開始！見つけた鳥はモニターさんが一羽ずつ、鳴き声や羽などの特徴を説明していたよ。モズ、トビ、ムクドリ、コサギ、イカルチドリ、コガモ、オオセグロカモメ、カワラヒワ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワセミなど、たくさんの鳥を発見！モニターさんが今見える鳥を教えたと、メンバーの子たちも「あ！ほんとだ！あそこ！」と、双眼鏡を使って一生懸命見ていたよ。

参加したよ！

#### 編集後記

取材第一号は調布こどもエコクラブさんだよ！わたしもバードウォッチングに参加してみて、メンバーの子どもとお母さん、お父さんが一緒に鳥を探して双眼鏡をのぞいているところが印象に残ったよ。他の活動にも参加してみたいなあ！！（ゆっきー）



#### 片瀬少年少女探検隊

活動地域：神奈川県藤沢市

人数：メンバー40名程 サポーター20名程  
(内学生10名程)

年齢：小学4年生～6年生

活動頻度：メイン活動は月1回（時にスタッフだけ  
での下見がある）

結成：1996年度から

気になるクラブ：藤沢市内のクラブ



#### ◇どうやってできたクラブ なの？◇

1994年頃片瀬公民館のキャンプ講座の修了者たちによって八ヶ岳キャンプが行われたのを始めとして、片瀬公民館の子ども事業として1995年に八ヶ岳キャンプを計画し、終了者たちはボランティアとして始めたよ。それだけでなく、計画した人たちは八ヶ岳だけでなく、月1回の活動もしたいということで1996年度に片瀬公民館の子ども事業としてメンバーを募集をスタート。2004年度までは小学4年生から中学生まででしたが、2005年度から小学4年生から6年生までになりました！

#### ◇メンバーのお話◇

普段、小学校で八ヶ岳へ行っているけど学校とは違って、自分たちの考えとペースで作業できるので楽しい！また、高校生や大学生の人たちとも話せて、いろいろな話が聞けて勉強になる！

#### ◇代表の方からのお話◇

高校生・大学生が主体となった企画で、私たち大人はサポートを中心に動いています。この企画は夏の八ヶ岳にむけての訓練なので、学生たちが「予測して動く」・「現場の人たちに頼らない」・

「大人に向けての勉強」してもらえる機会と思っています。また、表で学生たちが自ら率先して動いてくれると、裏で私たちが次の活動の準備ができるので助かります。そして、年数を重ねるごとに学生たちだけの企画をしてくれたらうれしいです！！

#### ◇どんな活動をしているの？◇

月に1回程度活動をしているよ。海の生き物などのを調査したり、料理や工作を行ったり様々な活動をしているよ。夏には八ヶ岳で泊りがけでの活動もしているよ。

#### 平成27年3月28日～29日 1泊2日の看板作り体験

二日間にわたり、八ヶ岳の看板を作りを行いました。今まで、八ヶ岳には夏しか行ってなかったので、八ヶ岳の冬自然に触れ合いつつ、雪で埋もれてしまった道を直したり、ベンチやテーブルなどを作成しました。また、夏の活動の下見も兼ねてこの活動を行っています。木材を選び、ノコギリで切り、釘を打ち、ニスを塗り、木を乾かして、文字を書きました。スムーズに作業できる人、うまくいかない人もいましたが、しっかりと学生スタッフの皆さんがサポートしている姿が見れました！

#### 編集後記

二日間参加してみて、学生たちが主体とした企画に参加するのは「どうなるんだろう・・・」と思っていました。ですが、学生がメインに動いていて、とても頼もしくみえました。参加者の皆さんも楽しそうに作業していて「また、参加したい」と言っている人もいました。来年は、これ以上の企画をしてみたいと学生たちが言っていました！（あまちゃん）



## MIYASHIROエコ☆スターズ

活動地域：埼玉県南埼玉郡宮代町

人数：メンバー7名 サポーター9名

年齢：中学2年生～高校1年生

活動頻度：年に数回のイベント、月に一度のゴミ拾い、ミーティング

結成：2008年12月10日

気になるクラブ：同じ宮代町で活動する、山崎山エコクラブ

### ◇どうやってできたクラブなの？◇

もともとは地元の中学校で環境ボランティアをしていた男子5人と卒業生1人が「宮代エコの星」を結成したのが始まりだよ。宮代町教育委員会主催の子ども環境会議という、町内の小中学生の代表が集まる会議に出席したよ。会議で出た、「エコバッグで買い物を！」という提案を冊子にして配るなどの活動を行っていたそうだよ。その活動に共感した女の子4人が加わってMIYASHIROエコ☆スターズに改名したんだって。

### ◇どんな活動をしているの？◇

メインの活動は4つ。一つは「エコ☆スタ Let's 地産地show cooking」。町の人に地元で作られた食材を買うことでエネルギーを減らせることを知ってもらうために行っているよ。二つ目は「作ろう！町のオアシス ふるさとキレイproject in 宮代」という町内の清掃活動。三つ目は廃材から工作する、「Wood!! Morning～僕達のクラフト～」。そして、エコについて町の人に興味を持ってもらうために「エコポスターコンクール」を行っているよ。

### ◇どうやって活動内容を決めているの？◇

すべての活動は4月初めの総会で提案が出たものから決めているよ。一つの行事ごとにチーフを決めて、チーフが細かいところの企画を担当しているよ。ちなみに、企画はすべて中高生が自分たちで企画しているよ。

### ◇今後の活動でチャレンジしたいことは？◇

2015年度の夏から、宮代町の隣、杉戸町で行われる古利根川流灯まつりでのフリーマーケットに出品すること。ここではみんなの家から集めたものを売るよ。売り上げは来年のふるさとキレイ大会参加者への賞品を買う資金にするそうだよ。また、代表の木村勇輝くんは「月に一度行っている定例ゴミ拾いへの参加者を増やす取り組みももっとしていきたい」と言っていたよ。



### 平成27年3月28日ふるさとキレイ大会in宮代

事前に応募のあった4～8名で構成されるチームが制限時間1時間30分で宮代町内のゴミ拾いをするよ。1チームに1人ずつスタッフが旗を持って付き添っていたよ。分別する袋はペットボトル・カン、ペットボトルキャップ、資源プラスチック、燃えるゴミ、燃えないゴミ、たばこの吸い殻用の6つ。たばこの吸い殻は1グラム10点、その他は1グラム1点。点数から人数を割った数（チーム内一人当たりの点数）で順位が決まるよ！一般部門、たばこ部門があって、合計点数の高かったチームには宮代町産のお米など豪華な景品があるよ。この日の参加者は60人、拾ったごみは全部で92kgだったよ。

小さいお子さんからおじいさん、おばあさんまで幅広い年齢の方が参加していたよ。宮代町内を歩き回っていくつかのチームを見たけれど、点数の高いチームは景品がもらえるから、参加者のみなさんは真剣に拾っていたよ。

### 編集後記

初めての宮代町は、ちょうど桜の時期で、川沿いの桜並木が綺麗だったよ。

宮代町は環境教育に熱心で、小中学校で環境についてのカリキュラムがあるんだって。環境活動を発表して、表彰される場があったり、環境について話し合いをしたりもするよ。MIYASHIROエコ☆スターズも毎日環境について考えることで強くなった環境への想いから誕生したのかな、と思ったよ。そして、彼らの活動に地元の方々が協力している、ということにも感動したよ。（ゆっきー）



## 中央エコキッズ

活動地域：東京都中央区

人数：80名

年齢：小学生

活動頻度：月1回程度

結成：2014年夏（2014年秋にエコクラブ登録）

気になるクラブ：こどもエコ広場新宿



### ◇どうやってできたクラブなの？◇

中央エコキッズは中央区立環境情報センターを中心に活動をしているよ。子どもたちにこの場所に来てもらい、環境問題に興味や関心を持ってほしい。「自然」や「もの」を大切に作る気持ちを育てたいという思いからできた新しいクラブだよ。

### ◇活動内容は どうやってきめてるの？◇

まず、中央区立環境情報センターの職員さんたちで何がしたいか、どんなことをしたら楽しいかアイデアを出し合うよ。出たアイデアを中央区の職員の人たちに提案して、よりみんなが楽しんでくれる活動を選んで1年の計画を立てているよ。

### ◇これからやってみたいことは？◇

中央区立環境情報センターの松田真実さんは「せっくなので子どもだけでなく、親子で楽しめる環境活動をおこなっていきたい。あとは、植物を使った自然遊びをもっとやってみたい！」と話していたよ。

### ◇オススメの活動は？◇

今年は1年を通して「宇宙環境講座」というのをおこなっているよ。宇宙についてのお話を聞いたり、ペットボトルロケットを作ったりするよ。ほとんどの活動はクラブのメンバーじゃなくても一緒に参加できるよ。中央エコキッズ限定の活動では「エコ寺子屋」というイベントを夏におこなうよ。中央区立環境情報センターのある大きなビルでお仕事をしている企業さんを訪ねて実際に取り組んでいる環境活動を学びに行くよ。

### ◇活動について教えて！◇

月に1回くらいの活動をおこなっているよ。自然観察・いきものみつけなど、外での体験活動も中央区内の公園や浜離宮恩賜庭園という大きな庭園などを使ってやっているよ。東京にはたくさんの公園があって、実は緑がいっぱいあるんだ。他にも、いらなくなったものを使ったおもちゃ作りをしているよ。ビー玉万華鏡というのを見せてもらったんだけど風景がくるくる回ってとても面白いよ。クラブのみんなは、ハガキで送られてくる「中央エコキッズだより」をみて、自分の気になる活動に参加しているよ。

### 平成27年6月6日 行事をあそぼう。季節をあそぼう。

今回参加したのは、中央区立環境情報センターでおこなっている、一般向けのイベント。中央区立環境情報センターでは子どもだけでなく大人も楽しめるイベントをおこなっているんだ。「ともいき暦」という旧暦と新暦を組み合わせた暦を使って活動をおこなっている方のお話だったよ。

参加したこの日はちょうど芒種（ぼうしゅ）という日。芒種は、イネやタネという意味の言葉で、梅雨に入り農家の人たちが田植えなどをして、いそがしくなる時期のことだよ。「ともいき暦」を使って一年を見ると日本のこともわかるし、自然のこともよくわかるね。季節にあわせて生活していた昔の人たちは行事を大切にしていたんだ。季節の変化は地球や自然の変化でもあるから、自然を守ることににつながる大切なことだと教えてもらったよ。

他には、季節に関係した紙芝居や絵本を紹介していたんだけど、お話を通して自然を学ぶことができるから、エコクラブのみんなにも難しくなく読めるよ。

### 編集後記

季節の変化や行事、身の回りの変化を大切にすれば自然と、環境を守ることにつながるからみんなも環境って難しく考えずに、気軽に季節の行事を楽しんでみよう。

都会の中心で活動をしている中央エコキッズだけど、よく見てみると近くに自然や緑がたくさんあっていきものもいるんだ。今度は外での活動に参加してみたいな！（坂田弥優）





## 豊明エコキッズ

活動地域：愛知県豊明市

年齢：小中学生

人数：約30人

活動頻度：月1回程度

結成：2004年

### ◇どうやってできたクラブなの？◇

最初は野菜を作って食べることが中心のクラブだったけど活動の幅を広げている。

まずは、親と一緒に楽しむ、発見したことに感動する時間を楽しんでほしい、という願いがある。

子どもたちの想いで環境についてのポスターを作るなど積極的に動いている。

### ◇どんな活動をしているの？◇

身近な自然に触れ、自然の大切さをみんなで考える活動をしているよ。自分たちができることを実行しているよ！！

親子で、おじいちゃん おばあちゃんと、友達とぜひ体験してほしいな。

### ◇今までの活動◇

作物（ケナフ、綿、そば、落花生、大豆、さつまいも、ゴマ）収穫物を使った調理体験、そば打ち体験、パン作り、皆瀬川の水質調査・清掃活動・自然観察会、蛍の幼虫の放流、無農薬の米作り、渡刈クリーンセンターなどの施設見学、防災グッズづくり、壁新聞づくりなど

### ◇これからやってみたいこと◇

クラブ内に知識をもっている専門家のような人がいるわけではないので、もっといろんな人と関わったり、交流会をしたりしてみたい。



### 平成27年7月25日 大狭間湿地自然観察会

今回参加したのは豊明市指定天然記念物である大狭間湿地の自然観察会です。一般の方や大狭間湿地に詳しい方呼んでグループに分かれて観察とクイズラリー、ザリガニつりをしました。貴重な生き物が多く生息しており、国内最小のトンボ「ハッチョウトンボ」や食虫植物の「トウカイモウセンゴケ」など様々な生き物や植物を観察することができました。子どもたちは興味や関心を持ちながら自分たちのペースをもって楽しんでいました。一息つく時間には、目を閉じて自然の音に耳を傾けました。メジロの声がして、私たちは、住宅や機械化で自然が減っていることやどうやって生きているのか感じる時間になりました。クイズラリーを終えるとハッチョウトンボやサギソウの写真の入った「大狭間湿地マイスターの缶バッジ」を受け取ることができました。また、最後には廃油石鹸が配られ、掃除の中にもエコを取り入れるきっかけになりました。

### 編集後記

自然観察会って初めて見る生き物や自然も多くて楽しかったよ。そこから今の身の回りの環境にも目を向けられるといいね。参加者の想いでこんなに活動を広げているって素敵だね、毎年積極的にに行っているクッキングにも参加してみたいな。(めぐ)



## 『オイスカ「子供の森」子ども親善大使

### ×こどもエコクラブ交流会in谷津干潟』

千葉県習志野市谷津干潟で「谷津干潟ジュニアレンジャー」「のじま自然観察探見隊」「竹の子エコクラブ」とオイスカ「子どもの森」子ども親善大使としてインドとパプアニューギニアから4人の子どもたちが参加した交流会が8月7日に行われました！

#### ◇1日の流れ◇

参加したみんながどこから来たのか紹介する地図を見てから交流タイム！

交流タイムではユースが司会進行を務めました(\*^\_^\*)  
一人一枚もらった紙に自分の好きなスポーツや趣味を話して自分のグループに発表し、話すきっかけができました。

お昼ご飯の時間にはグループのみんな笑顔で話しながら仲良くなることができました。  
私が一緒に食べたグループでは夏休みの話や得意なことなど話が弾み、休憩の時間も楽しく交流ができました☆

その後は野鳥観察と館内見学をしました。  
ジュニアレンジャーの説明を聞きながら今までの活動で得た知識を話してくれて「さすが！詳しいなあ」と驚きもありました。  
活動発表で各クラブのし話を聞いて植樹やツリーイングなどやってみたいと思い刺激にもなりました。

それからは楽しみにしていた干潟体験  
寝そべてカニの目線になって観察をするなど  
普段ではできない体験をすることができました。

(めぐ)

#### \*体験したこと\*

##### ◇野鳥観察◇

野鳥の中でも水に入る鳥、入らない鳥の両方が集まって浅瀬で休んだり、虫を食べていたりした。

##### ◇生物調査◇

胴長という服を着てカニの観察を浅瀬で行った。  
浅瀬にうつ伏せになり、なるべく人の気配を消すようにして観察をした。その後は浅瀬にある穴をシャベルで掘り、実際にカニを捕った。同じ浅瀬に住むカニでも種類が異なり、周りが住宅で囲まれ、東京から近いこの場所にこんなにも生き物いることに驚いた。観察が済んだ後は生き物を浅瀬に戻した。他にもカメも見つけることができた。  
外来種・在来種がいた。外来種の方が多くいる気がした。  
(いっしー)

#### ◇ユース主催の交流タイム◇

前半の交流タイムでは2種類のゲームを企画したよ。キャッチというゲームではみんなが楽しくやってる姿が見れて嬉しかった！  
誕生日順に並んでもらうゲームでは、最初はなかなか進められなかったけどユースの3人で協力して進めることができました！  
自己紹介の時間は日本から参加した子どもたちが海外から参加した子どもたちの自己紹介を真剣に聞いているのが印象的でした。  
お昼ご飯の時間には「私は将来〇〇になりたい！」「こんなことできたらいいなあ」という話もしてくれました！（あまちゃん）

#### 編集後記

海外の人たちとも時間が経つにつれて距離が縮まり、最後の生物調査では言葉が分からなくとも、生き物を発見した時の喜びや驚きを共有できた。この感覚を、私たちがこれから行うイベントで参加者の方に共有できたらいいなと感じた。(いっしー)

交流タイムや海外の子との交流で英語力をつけていたらもっと交流ができたのではないかと、という反省点もありました。私は地元で干潟の清掃や干潟に住むトビハゼの放流の活動していますが、見たことのなかった生き物と出会うことができたりと、とても充実した1日になりました。この経験を大切に活動に活かしていきます！（めぐ）

日本だけでなく、海外の子どもたちも積極的に活動していることがわかりました。静かに待ってカニが巣から出てくるのを見ていたのが面白かったです。そのあとの生物観察ではみんな頑張っている姿が印象的でした。最後にはみんなですべてプレゼント交換をしました。参加できてよかったです！（あまちゃん）



# ユースが行く！！

No.7

みっちゃん&

ゆっきー 編

## 「高尾の里山で会いましょう」

10月4日に東京都八王子市にある高尾100年の森で「高尾の里山で会いましょう」というイベントが開催されました。

福島県郡山市から大成エコキッズさん、地元八王子市から天神町子ども育成会さん、高尾100年の森を守っている佐川急便のご家族のみなさん合わせて約40人が参加しました。

### ◇佐川の森◇

高尾100年の森は佐川急便さんが大切に守っている森です。この森は自然のままの森であり、リスやキツネなどの動物やヒノキやクルミなどの植物も多くあり自然豊かな場所です。

### ◇大成エコキッズ◇

福島県郡山市の大成地区で活動する大成エコキッズさんは、1年生から6年生までの19人が所属するクラブです。普段の活動場所は公民館の中ですが、年に数回課外活動にも出かけます。今年度は10回くらいイベントを開催する予定です。

### ◇体験◇

#### \*火おこし体験\*

火おこしと言っても今回はチャッカマンで付けた火を大きくする作業を体験しました。小さい火種から、小枝、間伐材の切れ端、薪の順に火を少しずつ大きくしました。大きくした火はお昼ご飯のお味噌汁を温めるのに使いました。

#### \*森探検\*

普段レジャーなどで行くような山登りとは違い、急な斜面を登りました。

斜面が急なので降りるときに怖がっている子もいましたが、一緒に参加した子どもたちはその日初めて会ったにもかかわらず、助け合って降りているところを見ることができました。

山には間伐した後の木があり、間伐について説明を受けました。また動物のフンや木にクマが付けた爪痕、トンビなどの鳥や虫を見つけました。

#### \*マイ箸作り\*

間伐したヒノキを自分たちでナイフを使って削り、ヤスリでこすって作りました。

今回参加した中には小学1年生や2年生もいましたが、自分で最後までやりたい、と一生懸命削っていました。



### \*体験から得て欲しいもの\*

最後にこの日の体験で得てほしいものをユースで紙芝居風にまとめました。

もしも災害などが起こってライフラインが止まってしまったら。森にはそれを補うことができるものがあります。この日の火おこしや森の探検、ナイフでお箸を作ることは、やったことがなければできないことです。ここで知っておくこと、体験することで、もしもの時に活かすことができるのです。

#### \*佐川急便から参加

「今までに3回この森に来たけど登ったの初めて！」

「ナイフでお箸作るの難しかった！」

#### \*八王子市天神町子ども育成会から参加

「お箸全部自分で作ったよ！」

#### \*郡山の大成エコキッズから参加

「(間伐した)木がツルツル」

「切ることはなれていたけど、箸を作る時に、深く切りすぎたり、浅く切りすぎたりして、とてもむずかしかった！」

子ども  
たちの声

### 編集後記

子どもたちの中には虫などが苦手だという話をしている子もいました。そんな子も山登りで見つけた生き物には興味津々で大きなミミズやバッタといったものも真剣に観察していました。また、他のグループ同士でも会話している姿も見られました。私も久しぶりに山で活動したので、ワクワクがたくさんあって楽しかったです。(みっちゃん)



## 岡山ハッケンジャー

活動地域：岡山県内全域

人数：メンバー7名 サポーター6名

年齢：小学生・幼稚園児

結成：2014年4月

気になるクラブ：わくわくエコクラブ、  
にこちゃんず、大阪ハッケンジャー



### ◇どうやってできたクラブなの？◇

もともと自然の中で遊んでいた近所の友人ファミリーで結成したよ。自分たちの活動や生き物の記録を残したり、もっと興味を深めたいと思っていたときに、「こどもエコクラブ」のことを知りました。

### 平成27年10月25日 倉敷由加山自然観察

なんと当日の歩いた歩数は1万2千歩でした！当日は10時に集合をして山を一緒に散策しながら生き物調べをしました。出会った動物が57種類、植物は34種類！サポーターの佐桑さんの生き物の知識の豊富さ詳しくに驚きました。また、岡山ハッケンジャーメンバーもその元で日々鍛えられている為、生き物にも詳しく、捕獲も上手くて驚きました。小学生以下の子どもの参加もありましたが長時間の散策にもかかわらず頑張って歩いたよ。今回一緒に活動させていただいたわくわくエコクラブのメンバーも大変勉強になったとのこと。これからも楽しく生き物調査を続けて欲しいと思います。

### 出会った生きものの種類

蝶、蜂、カマキリ、バッタ、カメムシ、甲虫  
蜘蛛、貝、鳥類、は虫類、両生類

+

植物 etc . . . .

### ◇どんな活動をしているの？◇

「川・用水路・田んぼの生きもの調べ」「昆虫調べ」「公園などでの身近な自然調べ」「観察会への参加」「植物を使ったクッキング」「生き物の飼育と観察」「干潟生きもの調べ」「動物園での水槽展示」「キャンプをしながらの自然散策」等です。

### ◇今後の活動でチャレンジしたいことは？◇

低学年中心なのでなかなか難しいですが、地道に生き物のデーター・記録をとって、そこから自分たちでいろいろ考えるような活動をしたいと思います。

### 編集後記

今回、地元とは自然環境が違う中での散策で新しい発見がたくさんあり、私自身久しぶりの自然観察だったため楽しく参加させていただきました。今までほかのクラブの活動の様子などを知る機会がなかったため、今回の取材はとても良い経験になり、勉強になりました。結成して間もないクラブということなので、これからもっといろいろな活動に取り組んで、岡山のエコ活動を活性化していつてもらいたいです。(アミィ)



#### SAITAMA環境フェア&こどもエコフェスティバル

11/28に埼玉県の浦和駅前にあるCORSOで「SAITAMA環境フェア&こどもエコフェスティバル」が開催されました。埼玉県内の企業・環境団体・クラブ等がブースを設け、自分たちの活動内容を模造紙でまとめたものや、簡単な工作を通して来場者に発信していました。今回は、参加団体の「ふじみ野エコクラブ」、「竹の子エコクラブ」今回のフェア担当である埼玉県環境政策課の山本さんにお話を伺いました。



#### \*ふじみ野エコクラブ\*

埼玉県ふじみ野市で活動する ふじみ野エコクラブ さんは、小学生から中学生まで約15名が所属するクラブです。課外活動が多く、今年度は15回程活動する予定です。

#### \*サポーター 和田淑子さん\*

普段の学校生活ではやらない事を子どもたちに体験してもらおうと思っています。実際に、竹林の間伐や川の生物調査などを通して、自分たちが住んでいる街の自然に興味を持ち、新たな発見や楽しみがあると今まで活動してきて感じています。こういう活動がその時だけでなく後々、生きていくなかで、その時感じたことがとても大切だと思っています。

#### \*サポーター 村上久美子さん\*

活動を始めて、14年目になります。一期生は25歳位になります。今まで卒業した子どもたちに、話を聞くと、小さい時に活動をしたことが、自分の中で大切な経験だったのだと感じる時があると聞きました。やはりこういう活動は、環境以外にも人を育む上で必要なことだと思いました。一期生の子が、その経験をもとで理科の先生に成るべく、子どもとの接し方と環境の教育の一つのやり方を学ぶため、サポーターとして参加した時もありました。思いは受け継がれていることを実感し、長く続けることは本当にいいことだと感じました。

#### \*竹の子エコクラブ\*

埼玉県三芳町で活動する 竹の子エコクラブ さんは、2002年から活動を開始し、40名ほどが所属するクラブです。課外活動を中心に年に15回程度活動する予定です。

#### \*埼玉県環境政策課 山本奈美枝さん\*

このイベントは、埼玉県内の企業・環境団体・エコクラブそして県の取組を広く一般の方に知っていただくことを目的に開催しています。今回も多くの子もたちやその親御さんたちにお越しいただきました。これを機に環境問題に興味を持っていただければと思います。また、参加団体の方には、交流の場としても活用していただきたいと思っています。県として、これからどんなサポートが出来るかを考える良い機会でもあります。今後も、小中高生の皆さんが環境問題に関心を持ち、環境保全の活動を活発に展開していくためのサポートを続けていきたいと考えています。

#### 編集後記

今回サポーターの方取材しました。いろんな思いがある中で、環境の活動を通して、環境以外の部分に人として刺激も受けて成長していくこともあるんだと改めて感じました。私も自分のことを振り返ると確かにそれらの活動を通して、いろんな事が学べて後々生きてきたと感じました。私たちユースの活動を通して、人の役に立てるよう努力していこうと思います。(いっしー)



### 国連気候変動枠組条約第21回締約国会議 (COP21)

2015年11月30日から12月12日（会期1日延長）までの約2週間、フランスのパリ郊外（ル・ブルジェ）で国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）が開催されました。COP21では2020年以降の温暖化対策の新しい国際ルールに合意することを目指して行われました。

#### ◇COP21の会場について◇

会場は一般の市民も入ることのできる「グリーンゾーン」、入場にパスがないと入れない「ブルーゾーン」に分かれています。私はほとんどブルーゾーンにいました。いろいろな国の人たちが集まっていて、すでに顔見知りの人も初対面の人も気軽に話しかけ合うため和やかな雰囲気です。まるで一つの村のようでした。また、ブルーゾーンの中には様々な休憩スペースとしての椅子やカフェ、レストランがあります。そこでは、違う国の人同士でお話ししている姿がよく見られました。

#### \*環境への配慮\*

##### ◇会場内◇

会場内はもちろん環境に配慮したものを目指しています。会場入り口にある木のモニュメントは風が吹くことで葉が回り発電します。また、様々な国の人々が来るため分別方法がわかるよう図の描かれたリサイクル可能なゴミ箱が会場の様々な場所に設置されていました。他にも、ペットボトルをリサイクルする機械なども設置されていました。マイボトルを支給され会場内の様々な場所にあるサーバーから水を注ぎできるだけゴミを出さないような取り組みをしていました。

#### 編集後記

今回の記事は、減多に入ることのできないCOPの現場を見たものです。こどもエコクラブのみんなには、少し難しい内容かもしれないけど、少しでも興味を持ってもらって、世界では様々な国が集まり地球を考えているというのを知って欲しいです。また、今回私は見ることはできませんでしたが、こどもたちも会議で宣言をするため世界から集まり、話し合いをして大人たちの前で宣言文を読みます。自分たちと同じくらの世界中に住む子たちが環境について考えていることを知って自分たちの取り組みの励みになってくれると嬉しいです。私も今回のこの経験でユースの重要性を感じました。これからどんなことができるかしっかり考えていこうと思います。（みっちゃん）



#### ◇ユースの活躍◇

今回テロの影響もあり、日本からのユース世代の参加は少なかったです。海外のユースたちも自分たちの取り組みを紹介するブースを作ったり、記者会見で自分たちの考えや意見を主張していました。ユースの多くの意識は、途上国への支援とともに環境を良くするというものが多いように感じました。

#### \*パリ市民の活動\*

##### ◇NGOとCOP◇

様々な国のNGOの人たちが自分たちの思いを発信するべく参加していました。もちろん、市民の声を届けるためのグリーンゾーンもそうですが、ブルーゾーンにも多くのNGOがobserverとして参加し、世界へ呼びかけていました。

##### ◇市内での様子◇

市内にも多くのCOP21に関するモニュメントやプロジェクトを紹介するブースなどがありました。市内のブースはフランス語のため読めませんでしたが、多くの人が興味を持って覗いていました。



# ユースたちのこれから！

## ～これからビジョン～

私たちユースはこれまで自分の地域自分のグループで活動してきました。そして今、私たちは自分の地域だけでなく様々な場所に行き、学び得た知識を自分の夢あるいは次のこどもエコクラブのこども達に伝えています。また、私たちユースは大人とこどもの架け橋となる世代です。これからの社会を作っていく私たちができることは、環境に良い社会を目指すだけでなく、人生の先輩たちの知識を受け継ぎ、次の世代に伝えていくことができれば良いなと思っています。

### \*取材先・メンバー募集\*

2015年度はこどもエコクラブの活動を中心に体験取材してきましたが、2016年度は企業や団体をはじめ、環境活動を行う様々な場所で私たちも体験し感じたことも広めていきたいと考えています。クラブはもちろん団体、企業などの取材先を募集しています。また、イベントを開催する際に人手が足りないから手伝って欲しいというものでも大歓迎です！

### 問い合わせ

こどもエコクラブ全国事務局  
(公益財団法人日本環境協会)

〒103-0002

東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16  
馬喰町第一ビル9階

Tel:03-5643-6251 / Fax:03-5643-6250

ホームページ：<http://www.j-ecoclub.jp/>

発行：All Japan Youth Eco-club

編集担当：坂田 弥優

LINE@はじめました！  
ユースのメンバーが  
情報や日頃の様子を  
更新しています



### \*編集後記\*

私にとって環境活動は、生活の一部です。小学生からずっと続けているからというのがありますが、環境活動は難しいものではないと思うからです。

環境活動において私が大切にしているのは「楽しむ」ということ。

活動が楽しくなければ続けることはできません。どんなに辛くとも最後は楽しく、準備の段階でも自分たちも楽しめる要素を見つけて取り組んでいます。

「ユースが行く！！」はその中でも自分の知らない新たなものとの出会いの場です。

取材の際は、ドキドキワクワクしながら参加しています。

この本で私たちだけでなく私たちユースが感じたことを少しでも共有できたら嬉しいです。

坂田弥優